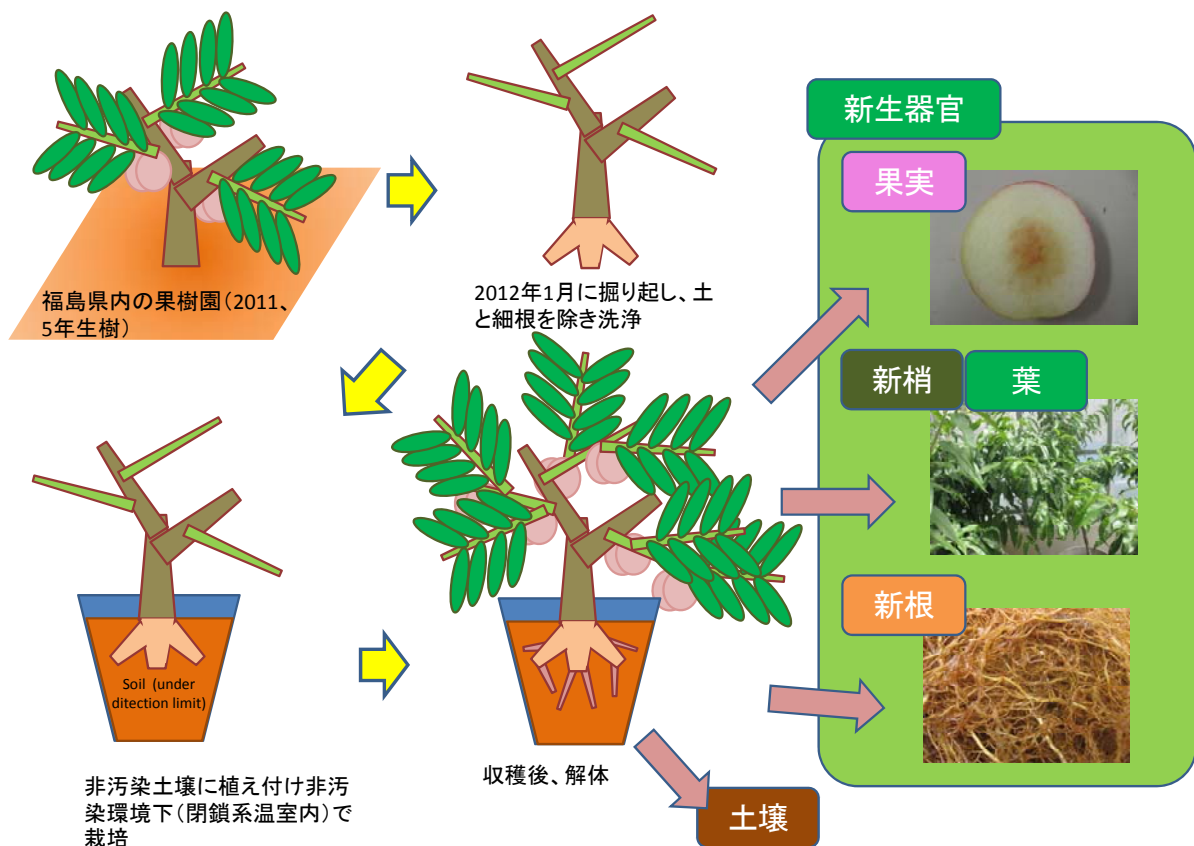


汚染された樹体から、どの程度の放射性セシウムが果実に移動したか？

¹高田大輔, ²佐藤 守, ²阿部和博, ¹安永円理子, ¹田野井慶太郎,
¹小林奈通子, ¹中西友子, ¹佐々木治人, ¹大下誠一
(¹農学生命科学研究科, ²福島県農総セ果樹研)

永年性の果樹では、原発事故年に樹体内に取り込まれた放射性セシウム (Cs) が次年度以降の新生器官に再分配される可能性がある。しかしながら、屋外の栽培環境では、土壌からの移行や樹体への再付着により新たに樹体内への移行する放射性 Cs とすでに取り込まれた放射性 Cs の挙動を分けて検証することは難しい。そこで、2011 年度に樹体内に移行した放射性 Cs の次年度 (2012 年度) における動態を検証するため、下記の試験を行った。2012 年 1 月に福島県伊達市に栽植の 5 年生モモ ‘あかつき’ を掘り取り、直径 2mm 以下の根をすべて切除したのち樹体全体を水洗し、閉鎖型温室内に搬入し、検出限界値以下土壌を用いた大型鉢に植え付けた。経時的な調査を行うとともに、収穫時に樹体を解体し、部位ごとの放射性 Cs を測定した。その結果、新生器官には全体の 2~3%が移行し、その由来源は、材に含まれる放射性 Cs であることが考えられた。これらの結果についての報告を行う。



第1図 実験のイメージ図